

平成28年度第1回まちづくり懇談会議事要録

1. 日 時：平成28年4月26日（火） 午後1時30分～午後3時00分
2. 場 所：船橋市役所9階 第2応接室
3. 団体名：船橋市自治会連合協議会
4. テーマ：「市民に愛され、育まれるまち」
 - 行政を含めた「市民協働」の新たなシステムづくりについて
 - コミュニティの一元化について
 - 船橋駅から臨海部にかけてのまちづくりへの期待について
 - その他
5. 次 第
 - (1) 開会の辞、出席者自己紹介
 - (2) 市長挨拶
 - (3) 活動報告
 - (4) 懇談

【開会の辞（船橋市自治会連合協議会：会長 もとき 本木 つぎお 次夫）】

本日は、大変お忙しい中ありがとうございます。

過日、臨時の執行部会を開きまして、懇談のテーマについて、臨時執行部会で検討した結果を持ってまいりました。よろしくお願ひします。

【市長挨拶】

○市長

今日は、お越しいただきましてありがとうございます。前回やらせていただいから、市も、社会もいろいろな動きがあつて、そういった中で、本木会長をはじめ、皆様方にいろいろな形でお世話になりました。

当然、地域包括の関係や、ボール遊びができる公園づくりなどについてもお願ひをし、いろいろやつてきております。今日、テーマもいただいておりますけれども、私としても、気にかかっている部分とかもありますし、ざつくばらんにやりとりをさせていただいて、気がついていなかった部分とか、多分あると思ひますので、その辺を十分取り入れさせていただきます。

逆に、私からも、提案させていただくこともあるかもしれませんので、ぜひ、よろしく申し上げます。

【活動報告、懇談】

●団体

では、始めさせていただきます。

まず一つは、行政を含めた市民協働の新しいシステムづくりについて。

これは、平成28年4月15日の広報ふなばしですが、人と人がつながることで生まれる、そして人がワクワクする、このまちづくりを進めていきたい、これは船橋市役所の使命であると、こういうふうにおっしゃっている。それから、市長の市政執行方針の中でも同じように、基盤づくりというのは、コミュニティづくりに参加できるよう人と人をつなぐことを基本的な柱としてうたわれている。

これは自治会連合協議会（以下：自連協）の活動目標の基盤でもあると思う。平成27年度から既に取り組みが始まっているわけだが、ご挨拶にあった地域包括ケアシステム、それから、災害対策基本法の改正に伴って、避難行動要支援事業も、今までの取り組みをさらに見直しながら進めていかなければいけない。いずれにしても、行政施策であっても、我々市民が一緒にかかわっていかなければならない。

地域には、ご案内のとおりNPOも含めていろいろな団体があるが、グループ毎の活動になっている。これを、地域で1つになって、同じテーマについて考えていくような市民協働のあり方というのは考えられないだろうか。行政も、各種団体も1つになって同じまちづくりというのを考える場づくりが必要ではないかと思うがいかがか。

○市長

私がいろいろなところで人と人をつなぐことが大事だと言ってきているのは、いろいろな人材とか、思いを持っている人が、それぞれの分野や地域にいる。それぞれ、活動していただいている人もいれば、活動する気はあるが、機会がない人もいる。

特に、最初に取り組んだのは『経済ミーティング』という、20～40代半

ばの若手異業種の人たちが集まって、これからのまちづくりを考える会合です。今では、100人程度は集まるようになった。

私としては、もう一つ、自連協を核にして、いろいろな分野の人がそろそろつながる時期に来ていると思う。会長もよくおっしゃいますが、まちづくりの中で、自連協というのは一番地域に根差している団体なので、そこを核にして、今まで入ってこなかったところをどうやってつないでいくかということを考える時期に来ていると思う。

例えば、市の諸団体でも、役員が若いころに参加したまま変わらずに高齢化している状況がある。

後継者について、市でも内部的にプロジェクトみたいなのを立ち上げて、そこに自連協の方や、ほかの分野の方が入って、やる気満々だけど、年間を通しての役員は引き受けられないという人たちもたくさんいる中で、どうやって取り込んでいくのがいいかを、今年度やってみたいと思っている。

今、地域団体に入らないとか、いろいろな新しい住民の人もいるなかで、今までは任意団体なので市のほうはあんまりPRできませんよという対応をしてきたが、まちづくりの視点としては、何か新しい切り口をもうそろそろ持たないといけないかと思っている。

●団体

今、市長のお話を伺って、考え方の基盤は同じだと受けとめた。現在あるいろいろな団体を一つにまとめて、そこに行政も関与しながら、一緒にまちづくりを考えていく場づくりというのは、これからすごく大事なことだと思う。

自連協が、もう少し力があれば全部に呼びかけて進めていくが、市長が今おっしゃっていたように、行政も一緒に新しいプロジェクトのようなものを立ち上げ、将来の市民協働のあり方を考えていくのは、非常に大事だと思っている。

○市長

市民協働の推進協議会は、5月19日に立ち上がるので、その中のテーマとして挙げてもらってもいいと思う。同じ悩みを、さっき言ったようにいろいろな分野の団体が持っている。自治会活動を含めて、次の世代の入りやすさというのはどうしたらいいのか、きっかけづくりをどうしたらいいのかということを考えたいと思っている。

●団体

自連協の意味というものを、まだわかってない人もいるので、そういう中でお互いに、まちづくりを進める中でこんなに大事なものなんだ、組織なんだということを理解し合いながらいくといいんじゃないかなと思う。

○市長

例えば、お祭りやイベントを見ている、地域のいろいろな団体が一緒にやっている、むしろ今の方が、いろいろな人が入っている気がしないでもないが、いかがか。

●団体

結論から言えば、お祭りだとか、スポーツ大会だとか、いわゆる制度ボランティアの人たちが一生懸命やっていることは事実である。ただ、各制度ボランティア団体の中では、案外、連携がとれた活動となっているが、それだけでなくもうちょっと広げ、地域全体として考えられる場づくりをご提案申しあげた。

○市長

わかりました。それはうちのほうで、こんなやり方でどうだろうという、具体案ができた時点でまたちょっと自連協にも提示をさせていただいて、やりとりさせてもらえればと思う。

●団体

はい、ありがとうございます。

それからもう一つ、これは私どもがまちづくりにかかる行政の懇談会だとか協議会に参加していて気付いていることですが、総合計画では、5ブロック24コミュニティということになっている。ところが、ある行政計画の中では、10コミュニティをベースにしているのがある。都市計画マスタープラン（以下：都市マス）は、将来展望に立った市の行政の進め方をまとめているので、これはしょうがないと思う。しかし、市民生活に密着した住生活基本計画の中にもそれを使っている。

この中では、10コミュニティでデータが挙げられている。例えば、これ読んで気がついたのは、「新高根・芝山」（高芝）が、市内で最も高齢化率が高いところとなっている。高芝は、比較的高齢化率が高いのはわかっているが、市内で最も高齢化率が高いということになれば、高根台、大穴、松が丘、そう

いう北部のほう。ところが、新高根、芝山が例示されている。市民参加を求める行政計画であるとするれば、やはり総合計画で定める24コミュニティをベースに、この基本的なデータやなんかも整理していかなきゃいけないんじゃないだろうか。

○市長

都市マスは、当然、面的に広い部分でちょっと見ていかなきゃいけないということで、10コミュニティにしている。住生活のほうも、これはいろいろな考え方があるが、例えば福祉の、細かい施策をやっていくときは、メッシュはもっと細かいほうがいい。メッシュはどんどん細かくしていったほうがきめ細やかだが、逆にトータルの意味での住環境のあり方みたいなのがあって、協議会でも議論したみたいだが、とりあえず細かなデータを持つにしても、一応区切りとしては10区域でやるという方向を出したということである。

それで、この基本計画に基づいて支援協議会とかやっていきますけど、そのときに元データの細かさと、エリアとして、こういう方向性で行きましょうということがあり、1つの中でも、こういう部分はこうしましょうとか、だから細かいことはやっていかせますので、ちょっとその辺はご容赦願いたいと思う。

●団体

そうですか。私ども、やっぱりコミュニティというと、もう24だと。総合計画でもそうなっている。しかも25番目のコミュニティをつくりたいというところも出ている。それから、実態的に見ても、例えば高根台と高芝が同一生活圏となっているが、条件が全く同じかと言うと、必ずしもそうではないはずだと思う。別のファクターがあるものを1つにまとめてしまっているところに、やっぱり無理がありはしないかと思う。

実は、住生活基本計画の策定委員会の中でも、これは指摘させていただいた。だから、今後、これは行政としても考えていただかないと、少し混乱を招く部分がある。しかも、市民が今後関与していく施策があれば、余計にそれは大切な問題ではないか。

○市長

ありがとうございます。

●団体

コミュニティの24地区の分け方だが、市長ご存じのとおり、北部はほかの地区とは違い、北部の7地区というのはちょっと特殊性がある。これ、24地区に分けた当時は、もう30年ほど前から、分けると同時にその地区に公民館を設置するというので、市の事業でやられた経緯があると思う。その24地区に分けるときに、今、条件が同じというお話が出たが、そこに、それは公民館が1つあるのは全部同じだが、学校にしても、特に三咲は小中学校がございません。

そういう関係で、最初に提案した問題にもかかわるわけですが、その地域の若者との、地区連と若い人たちの交流というのがばらばらなんですね。大体、地区というのは、学校を主体にまちができていると思う。例えば、16号線寄りの豊富なんかそうですが、昔は豊富の学校だけしかなかったの、そこには八木が谷のほうからも来ていたが、それが24に分けられた時点で、分かれているわけです。

そして現在、実際そうですが、豊富の地区連の役員の方は、八木が谷にお住まいです。そういうふうに乱れているという状況にあり、特に北部の場合は、きちんとした条件設定ができないという状況がある。要援護者の避難関係なんかも、計画ができない。というのは、私の地区には避難所がないわけですから、避難所を設定するにあたっては、二和地区連だとか大穴地区連との調整が必要である。

○市長

一応エリアでは決まっているのか。

●団体

決まっているというか、たまたま三咲の子どもがその学校に行っているの

で。

○市長

エリアのとり方はそうなんだけど、どこに住んでいても、それは学校の通学とかその距離とかでやっているの、三咲の小中学校が、ちょうどないところであっても、あるところであっても、同じ決め方である。要するに、道路に線を引いてあるわけではないので、避難所の決め方は、危機管理のほうでは、そのエリアにあるから、ないからということでやっているわけではないと思う。

●団体

そういうことで私の地区の子ども達は6つの小学校へ行っている。そういった避難所の関係というのは、それとは別個のようである。例えば、避難所を運営する主体、学校と市と地元の避難者、三者が協力して運営するわけだが。その運営に当たっても、三咲だけの考えではできないと。

○市長

なるほど。防災訓練のときは、どうされているのか。

●団体

勝手に行っている。

○市長

そうすると、学校が所在しているところのコミュニティと調整をとらなければならなくなるということか。

●団体

この問題というのは、ちょっと古い話でもある。その地域の、大体地域の中には学校というのが幾つかあるが、たまたま三咲地区連というのは、地域の核になるようなものがまるまるそこに入るとい学校がない。防災活動にしても、あるいは福祉活動にしても、市民の会なんかもそうなのかな。

市民の会はちょっとエリアが違いますので三咲だけじゃないんですけど、そういうふうな部分があるかと思う。これをもう少し、どう、教育委員会の話ではないし、危機管理課の話でもないし、何かうまく窓口を、そうすると自治振興課か。

なかなか方向性というのは、こうすればいいというのが、私どもの立場でも出せない。もしかしたら、この辺については、議論するのはうちの組織対策委員会で検討してもいいし、こういうふうにあるべきだというデザインがあれば、そういったものも提示しながらやっていったほうがいいんじゃないか。

○市長

普段やっていたいでいることで、ほかと違って困っているんだよということが具体的にあって、それで将来的にこういう形にしてくれというのがわかると、こっちとしても非常に整理しやすいので、またその辺は改めて教えていただければと思う。

●団体

そのほか、例えば選挙の投票所にしても、何かこう、よその地区にある学校にという頭がある。

我々が視察に行った岡崎市は、防災、福祉、青少年の健全育成、全てが小学校区で、小学校区が1つのコミュニティになっている。これは理想的だと思う。

このような話は、例えば市民の会の活動と、地区連合会の活動との話でもよく出てくる。

○市長

船橋は学校がどんどんできた街なんで、多分、そういう小学校区も、またいつ分かれちゃうかわからないみたいな感じになって今は戻せないだろう。

●団体

ちょっと私も、難しいと思う。もし、いわゆる新しい市民協働のベースならば、1つの方向性として福祉でも、防災でも、青少年の健全育成でも、防犯も含めて、小学校区をベースにした区域割りでまとめていくというのがある。

実は、近隣7市住民自治組織代表者会議の中で、たまたま習志野市が話をしたことだが、行政が必ずこの中に入って、小学校区で活動を共にしていくというようなことを始めたようだ。それは1つの方向性としてあり得ると思った。

○市長

習志野市は随分昔から、市の職員が地区担当みたいのを置いてやっているようだ。どどこ地区は市の職員の誰々さんねという。多分、そういう市も幾つかあるみたいだが。

●団体

7市代表者会議では、何か新しい方向として紹介していたと記憶している。

○市長

所管部署に勉強させる。ただ、本市の大きさになると厳しいと思う。

●団体

そう思う。

○市長

名古屋市だったと思うが、一時期、自連協と別にこういうまちづくり協議会のようなものを立ち上げた。マスコミでも取り上げられたが、結局上手くいか

なかった。その興味を持った人が一瞬集まってくるが、自連協のように、そこに住んでいて、もう逃げも隠れもしない人たちがみんな集まってやっているのとちょっと違うので、つまらなくなると抜けてしまう。

●団体

いずれにしても、全てこの市民協働のあり方に特化して、船橋市は新しいまちづくりというのを考えていかなきゃならない時期ではないかと思う。

○市長

それはもう全く同感で、次の世代の人たちも含めて、いろいろやりとりさせていただきたい。すぐにはうまくいかななくても、だからこそじっくりやらなきゃいけないと思っている。

●団体

すぐにやれることなら、市長とお話ししなくても、部門の部長、課長で済むと思うが、これは、市長のポリシーとして、方向性の確認をしなければならない問題だと思うので、よろしくお願いします。

さて、市長が初めてご就任なさったときからの大きなテーマであった船橋駅から臨海部にかけてのまちづくりは、商業活性化協議会でも相当議論はされている。今、船橋駅南口は、船をモチーフにした、街灯もきれいになったし、電線は全部取り払ったし、それからアーケードも取り払った。非常にすっきりした。

やはりその臨海部にかけてのまちづくりはとっても大事なことだと思う。平成27年度までは、市政執行方針の中にはあったが、平成28年度からなくなってしまった。私どもは、臨海部にかけてのまちづくりに対して、非常に期待している。市の担当部長からは、基本構想は大体できていると聞いたが、できているなら、早く市民に公開をして、一緒に知恵を出し合う場づくりをすべきではないか。

○市長

今回、市政執行方針に盛り込むものがたくさんあって、文章が長くなり過ぎちゃうから、継続的なやつはちょっと外して、海老川上流のことや新しいことに重点を置こうかということだった。

ただ、今の段階では本当に大きなエリアの構想までしかいっていない。とい

うよりも、いろいろな検討が必要なので、もう少し姿が見えるころに、何らかの形で市の考えを市民の皆さんに示して、意見を聞くことになっていくと思う。

だから、もう少し時間をいただきたい。

今回、静岡県三島市に行き、非常に勉強になったのだが、そこでは健康寿命日本一を目指しており、例えば、タニタ食堂と「食と運動による健康まちづくりに関する協定（※注）」を結ぶなど非常にユニークな取り組みをしている。また、三島市は都市計画が健康づくりと明確に結び付けられていた。要するに、歩道を何のためにつくるという問いに対し、みんなが歩き回れるようにつくる。歩く人は誰なのかといたら、高齢者の人たちも歩くので、こういうネットワークにした方がいいなど、三島市の都市計画の考え方が非常に勉強になった。

だから、帰ってきて、この話を早速話したばかりである。今までは、都市計画というと景観などから入っていたが市民や来た人が歩く道だとか、車とこういう役割分担だとかというのを健康面からみて、計画、設計するのも大事じゃないかという話をしたので、ちょっと修正を加えてみたい。

少し時間はかかるが、そういった感じでやっていこうと思っている。

※注…「食と運動による健康まちづくりに関する協定」

三島市が、市民の健康意識をさらに高めるために、市街地などを回遊して楽しみながら健康増進に取り組む仕組みづくりや地域活性化を、株式会社タニタの健康づくりやノウハウを生かしながら協働で展開し、“健幸”都市・三島の実現を目指すための協定

●団体

船橋駅から臨海部にかけてのまちづくりは、市長が就任して最初の市政執行方針の中にあって、私どもも賛成をさせていただいた。

今度の市政執行方針についても意見を出させてもらっている。

○市長

今回、まちづくりで新しく出したのが、今の海老川の脇の市場の北側のあたりを、今まで組合施行でやる、地権者の組合でやるといっても、地権者の同意が9割ほどないとやらないとずっと言ってきたが、市も方向性を出して、近くに駅をつくってというようなことを考えている。今後、同時進行でやっていくようになるので、財源の見通しとか、今、丁寧に計算し直している。

●団体

その部分については、『広報ふなばし（平成28年3月1日号）』では説明不足だというふうに、「自連協だより」に書いた。というのは、新たな事業への取り組みの中で、海老川上流地区において自然との調和を図りながら医療、福祉機能を中核とするまちづくり、これしか書いておらず、これだけでは市民にはわからない。

○市長

わかりました。それは注意する。

これから、もう少し具体的なやりとりが始まるので、ちゃんとお知らせする。

●団体

『広報ふなばし』には毎回、市政執行方針については、具体的に掲載されており、私たちもこれを一生懸命読ませていただいた中で感じたことを率直に申し上げている。

○市長

わかりました。ありがとうございます。

●団体

次に、臨時の執行部会のときに2つほど要望が出されている。

1つは、塚田地区に新しい開発計画があって、新設の小学校の問題も出てきている。それに伴って、通学路の安全対策について、市長にお願いしていることではあるが、塚田地区から再度お願いをしておきたいという意見が出た。

●団体

A G Cテクノグラスの跡地に小学校ということで、12月の議会で明確に表明されている。この後のスケジュールは粛々と進むと期待しているところだが、今時点でも、北本町2丁目の子ども達は5つの小学校に通っている。A G C近辺でいくと、東へ行く場合に、北本町2丁目の子は、ゴルフ練習場の脇の狭いところを渡って通っていく。現在、森のシティ自治会、北本町一丁目の、今現在100人強がスクールバス4台で、市場小学校へ行っている。当然のことながら、あそこの子ども達が新しい学校へ移るだろうと、私どもは見ている。

そこで、あそこに3、4年後には400人を超える子どもたちが小学校に通うというときに、通学路の安全確保を、今のままでいいのかということである。

あの道路は、イオンモールができてから非常に渋滞しているところであり、車や自転車の往来が、我々の想定以上に進んでいる。そういう意味では先ほど都市計画の道路で市としてきちんと安全確保の展望ができているのか、ものすごく不安である。

ゴルフ練習場のところにはスクールガードがいないが、行田東小のPTAの人たちが週に1、2回出てくるようなところで、非常に危ないところ。かつて、校長先生が立っていたときもあった。非常に心配である。

その学区に当然絡んでくると思うのだが、船橋総合病院の北側に北長津川という川がある。そこで北本町1丁目と2丁目に分かれている。船橋総合病院の向こう側に180世帯程度のマンションがある。この子ども達は北本町2丁目にあるため、5つの学校にいつている。船橋小まで行っている。非常に危ないところである。

○市長

船橋小まで行っているのか。

●団体

船橋小、八栄小、夏見台小、行田東小、海神小と5つの学校に行っている。その5つに行っているということは、コミュニティ自体は学校選択区である。学校選択区というのはコミュニティが崩壊しているという風に私は捉えた。隣の人と学校が違う。こういう世界が築かれているので、このマンションには自治会はない。もう何度かアプローチをした。組織対策の責任としてもやっているが、隣の人と口もきいたことがない人もいと聞いている。

そういうことでずっと話が整わなかったが、児童の安全確保の上でいくと、どうしても東武野田線を高架にしてもらうことが必要ではないかと。行田から北本町へ行くのにも、車で渡るのも命がけだと言っている人もいる。そういう意味では、どこまで伸ばすのか議論はあるとしても、国、県、市、事業者がお金を出し合って高架にしてほしい。あそこが高架になれば、塚田の都市計画は将来明るいと思う。東武野田線その他、JR武蔵野線と2つの線路があるエリアなので、非常に地域をまとめるというのは難しいところである。

塚田地区、西部地区はどんどん人が増えている。

船橋は待機児童全国2位と聞いているが、私は、塚田に集中していると思う。

公民館の児童ホーム、子育てのお母さんが毎日沢山いる。すごいエリアだ。ますますマンションもできているし、一体これからどうなるのかと思っている。

○市長

A G Cテクノグラス跡地の、学校の用地確保は目鼻がついた。おっしゃるように、通学路のことというのは、これは塚田地区も東武線の沿線でいろいろあるので特に目立っているが、実は成田街道とかもそうである。大きなトラックが脇を走っているときに、子ども達が傘を差していると引っかかってしまうくらいの距離感である。

市では、道路の方にも手を入れたいと思っていて、交渉しているが、手をつけてから完成するまでものすごい時間がかかってしまう。ただ、これは私も認識しているので、何とか開校までにできるという軽い約束はできないが、極力その努力はする。

あと、教育委員会でよく議論になるのは、選択学区のこと。これは、学校がどんどんできたときに選択学区にして、ちょっと誘導しながらやってきた経緯もあるらしいが、今では、西海神小と葛飾小の学区を変えるだけでも色々あった。

ただ、将来的に、西のほうの人口が増えているところもしかり、人口が減っているところのエリアの学区も見直していかなければ、選択学区にしたがために、ある学校では生徒数が100人程度しかいなくなって、逆にある学校では教室が足りないからつくってくれみたいな話に来て、冗談じゃないと。学区を元に戻せば、そのエリアの子が行くのだから、そうしたらちゃんと学校も維持できるのではというような、やりとりをしている。

これは、そう単純にはなかなかいかないらしく、そういった声があるのは私もしっかりと教育委員会に伝えておきたいと思う。あと、東武線の高架は、費用で考えたときに、道路買収のほうが安いと思う。いずれにしろ、高架は計画から最低30年ぐらい平気でかかる。

●団体

未来の財産としては？

○市長

そうですね、未来の財産として。エリアを分けちゃっていて、踏切で行き来

するしかないので、高架の要望はわかる。

けれど、これはまさしくさっきの都市マスじゃないけど、広いエリアの考え方で、道路のことも含めて一生懸命、所管部署とやりとりをしていきたい。

●団体

森のシティの子ども達がいつまで市場小へ行くかというのは、今後、検討してみしてほしいと思う。子ども達がどんどん増えており、やがて車4台では回らなくなる。

○市長

教育委員会に聞いてみる。

●団体

そういう意味で、私は基本的にAGCテクノグラス跡地のほうへ来るのではないかと、想像している。

●団体

おそらく、課題としては教育委員会も地元も理解しているようだし、主管部門と話を詰めてほしいという前提であった。市長には、こういう課題があるということをご記憶いただければと思う。

○市長

わかりました。学校用地を確保できて一安心はしたが、まだ次の問題があるので。

●団体

それからもう一つ、臨時執行部会で出たのは、空き家の問題である。

私も住生活基本計画に携わっていて、相当発言をしてきた。課題が非常に多いことに対して、住生活基本計画の中でも今後取り組みを強化していこうとなっている。ただ、三田習地区連から、ちょっとこれも申し上げさせていただく。

●団体

やはり高齢者社会、それからいわゆる二世が帰ってこない、そういう問題があって、空き家が非常に多くなっている。それは、防犯上、防災上、いろいろな面で問題が多いことを市長にお話をさせていただきたい。

今、空き家の担当が市民生活部で、一応相談はしている。なかなか、抜本的な、対策的な回答を得られないということもあり、今回、ご提案させていただいた。

○市長

空き家については本当に、市民の声を聞く課へのご意見としてもだんだん多くなっている。あと、平成28年度の全数調査で空き家がどのくらいあるのかという調査はすることになっている。明確には言えないが、空き家でも幾つかのパターンがあって、本当に危なくてしょうがないところと、まだ利用できそうなところ。まさしくさっきおっしゃっていた、子ども達が家から出て別のところに所帯を持って帰ってこないなど、幾つかに分けられると思う。それぞれ対応の仕方が違うと思う。

今度、自立支援協議会、住生活の関係で協議会を設けるのだが、福祉の関係で、家のことも当然やっていく。そこでこの空き家というものを何か利活用できないのか。一人暮らしの人が亡くなれば当然空き家になる。例えば、船橋の場合は、不動産屋に言わせれば、まだ不動産としての価値は残る。ただ、子ども達が、財産処分する必要がないところで非常にギャップが出てくる。この辺りの活用の仕方をちょっと勉強させていただきたいと思っている。

もう一つ問題なのは、今にも崩れそうなところで地権者が対策をやってくれない箇所に対して、今までは代執行のような形ではやっていないが、これを本気でどこまでやるかは、いろいろな手続き的なものなど後々生じるので、ちょっと勉強させてほしい。

ただ、いずれにしても、今でさえ独居世帯が船橋の中で3万3千人ぐらいいる。今、独居、老老、その他の世帯が3分の1ぐらいずつである。これが進むと、独居の方で亡くなった方を差し引いても、老々の2人住まいの人で連れ合いを亡くした人が独居にどんどん入ってくるので、そうすると、空き家の件数が確実に増えていく。不動産的な利活用が何かできるか、その辺の手だての船橋方式を見つけられるといいかなと思っている。

だから、今回、全数調査をやった結果で、その辺の分析をしていきたいなど。そのときはおそらく、地域の中で一番わかっている人たちの意見を聞くのが一番わかりやすい。役所がデータで整理し始めると、だんだん現場側のことを置

き忘れて数字になっていきやすいので、それはまたきめ細やかにやらせていただきたい。

●団体

わかりました。

その関係で、三咲だけではないが、地区社協の事務所は、間借りと言っては失礼だけど、公民館図書室の一部を使っているところなど、本当に狭い。実際、お年寄りが主体だが、来ても座るところがないとよく言われる。実際、以前、他市で経験したが、空き家などを利用するのも一つの手じゃないかと思う。あとは、ミニ図書館をつくった経緯もある。ちょっと参考までに。

○市長

ありがとうございます。

おそらく、その空き家の位置によってはいろいろな活用の仕方があるが、今言った地区社協は、私ももっと広いところでやったほうがいいのではと思うのだが、どうも、公民館から離れるのは抵抗が強く、補助制度をつくってもなかなか利用してもらえないとか。

ただ、これから地域の何とかカフェじゃないけど、新しいものとかね。そういったもので使っていくとか、物件にもよるが。ただ、それだけに使ったって数は追いつかないので、トータルで、一番早いのは、不動産価値がついてちゃんと処分ができるのが一番いいのかもしれないが。

●団体

だから今、住生活基本計画の中で、そういった方の近親者が親の近くへ来たときに、それに対して行政としても支援を考えていこうというのはある。そういうものが、どのくらい効果を発揮できるか。最近、他市で引越料の支援なんていうのも新聞でちょっと見たが、どのくらい効果を発揮できるか、未知の部分である。

○市長

ちょっとそこは読めないんですけど、ただ、いろいろなところでやっている事例を全部うちでやってみるわけにもいかないんで、事例を参考にして一番効率のいいところを考えたい。

さっき言ったように、不動産業者と話をすると、船橋は県内では位置的に恵

まれている空き家である。だからその辺をうまく財産的に活用できればいいという感じはしている。

●団体

地元としては、その活用も大事だが、その空き家なり敷地なりを、きちっと管理してくれるのならばいい。草は伸び放題、枝は出放題で、たまたま隣の人が切っちゃったら、親父の大事な木をなぜ切ったってそういう話になって大騒ぎになったという話もなくはない。その周辺にご迷惑をおかけしているということをお忘れして放置されていることに対して、解決策が何かあればと思うが、町会としては非常に難しい問題である。

●団体

町会自治会でこの空き家の問題が出ているのは、防犯、防災、青少年の健全育成、環境、そういうふうないろいろな問題があるからである。町会ではこの空き家の問題が非常に大きな問題、課題としてのしかかっている。これを行政と一緒にどういうふうな対策を講じていったらいいのか。

私ども自連協は、行政にだけやれやれと言っているんじゃない。私どもも市民として、どういう知恵が出せるのか、どういう行動が起こせるのか。常に自連協は、誰かが悪いという他を悪者にしてそれで済むということは考えていない。自分たちも一緒に知恵を出し合い、行動を共にしながらやっというのが私どもの方向である。だから行政も、何か困ったら、すぐに役に立つかどうかは別として、自連協にご相談いただければと思う。

○市長

ほんとうに、こうやってフラットな関係で話し合うのが一番いい感じがする。

●団体

そう思う。今日のテーマは、いずれにしても非常に難しい問題で、市長とスタンスを一緒に合わせないと、私どもの活動ができない。

○市長

ありがとうございます。こうやって皆さんとお話しできるのは非常にありがたい。

さっきの、空き家の隣の枝がトラブルになるとかというのは、ほんとに気の遠くなるような話になるが、やはり教育。教育をもうちょっと考えないと、2

0年ぐらいたてば子ども達は立派な大人になる。デンマークの姉妹都市オーデンセ市の部長たちと話したときに、すごいことを言っていた。向こうも、国の中でいろいろなことがあったときに、40年スパンで教育目標をつくったと。

それは、まず、いい親になる子を育てようと。そのいい親になった親が育てた子どもが大人になったときに、初めてちゃんとした社会ができると。そのスパンで考えたと言った。日本は今、2～3年たって効果が出ないとだめな施策みたいなことを言う。私は、さっきの話もそうだが、子ども達にもうちょっと加えて教えていかなきゃいけないことをもうちょっと考えたほうが良い気がする。

●団体

地域の教育力というのが、船橋市の教育政策にもあるわけだが、私どもでさえ、率直に申し上げると地域の教育力がどうあるべきか、なかなか答えが出てこない。今の親はと言えば、その親を育てたのは誰だと、我々の年代である。40年たつと、同じ視点だと思う。

○市長

今のままでやっても40年経つし、何か工夫をしても40年は経つ。私は、スクールガードの話や、こども未来会議室の話を時々するのだが、地域の教育力って、やっぱり背中で見せていると思う。子ども達が、「あ、大人になったらこんなことやるんだな」みたいなものを無意識に覚えさせるというのはとても大事。それは、さっき言ったイベント的なものや、スポットでやっていることなのかもしれない。しかし、それを経験して育つか、経験しないで育つかで、大人になったときに全然違うと思う。

そういった意味では、それぞれの地区でお祭りをやっていただいているが、地区社協もそうだけれども、そういうのが、多分、地域の教育力だと思う。だから、これやれ、あれやれという教育は地域の中でやるというのではない気がする。

皆さんと一緒にやっていただいている姿を見せるのが、地域の教育力という気がする。

●団体

今、思い出したが、30年ぐらい前に、ある講演会で女性の講師が、親になるのに免許証は要らないという話をされた。まさにそれが全て今の時代にはまっている。だから、30年前にその人が今のことを心配して言ったのかどうかわからないけど、確かに親になるのに免許証はいらない。親になる免許証は何か、それもない。

最近、自分で産んだ子どもを箱の中に入れてたり、自分の子どもを虐待するなどの事件が毎日のようにある。今、会長も言われたが、少なくとも我々が子どもころは、近所にうるさい年寄りがいて必ず怒られた。そういう方がいた。

だから、地域の教育力、まさにそこかと。市長が言われるように、これからのことを考えたら、大人が今、頑張らなきゃいけないかなと思う。

●団体

今日は、非常に率直なお話を伺えてよかったと思う。市長、何かテーマがあれば、いつでも言ってきてくれというお気持ちはそのまま受けとめさせていただいてよろしいか。

○市長

ええ。いつでも。例えば、市がやっていることで、いまひとつ、よくわからないというときがあったら、遠慮なく言っていただいたほうが、こっちも助かる。これからもぜひ、いろいろな形で言っていただければと思う。

●団体

今日は大変お忙しい中、ありがとうございました。

○市長

いつもありがとうございます。またよろしくお願いします。